

熊野神社崇敬者の皆様へ

去る平成二十三年九月二十一日午後四時頃、埼玉県秩父地方を通過中の台風十五号の強風と豪雨により、当熊野神社境内の御神木が根刮ぎ薙ぎ倒されてしまったことは以前ご報告いたしました。近隣の方々、岩堀建設様、小塚組様、樹木医の荻原様、伐採業者の神辺様等のご協力により、人的被害や物的損害が皆無のうちに作業は終了したものの、倒木の危険性があることから、断腸の思いで他の御神木一株も伐採を決断。二十三日のうちに伐採および運び出しを完了致しました。

その後の経緯

「鎮守の杜」、「御神木」という言葉があるように、昔から神社にとって樹木は神様が御宿りになる依り代にもなりうる、神聖で大切なものであります。従って、百年二百年単位の長い目で鎮守の杜を考える必要があります。未来永劫子々孫々この熊野神社の杜が、参拝される人々の心を癒やし清々しくお参りできるように、多くの人の心の心に安寧と感謝をもたらすように、関係各位と熟慮を重ねた結果、四百年以上前にこの地に熊野神社の分祀をお願いした紀州和歌山の熊野本宮大社に御神木の譲渡をお願いしてはどうかという事になりました。早速、こちらの事情を手紙に託して願ったところ、熊野本宮大社宮司九鬼家隆様よりご快諾をいただきました。そして平成二十三年十二月九日、十一月一日にかけて本宮大社までトラックで参上し、榊と榊(なぎ)の御神木を一株ずつ頂戴して参りました。

熊野本宮大社の聖地「大斎原(おおおのほら)」に樹生していた御神木

大斎原(おおおのほら)は、熊野本宮大社のもともとの境内であった場所。熊野川と音無川の中州でしたが、明治二十二年(一八八九年)の洪水で社殿が流出、上四社は現在地に移築されました。この旧社地入り口には日本一の大鳥居があり、伏拝王子(ふしおがみおうじ)からもその姿を望めます。この二本の御神木は熊野本宮大社の聖地である「大斎原」からいただいたものであります。平成二十三年九月初頭の台風十二号にも耐え抜いた強靱な生命力も兼ね備えた由緒ある御神木であります。



大斎原風景 読売新聞より H23.12.15

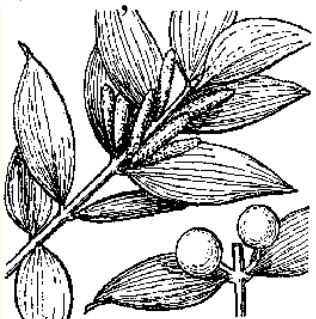


大斎原遠景 H23.12.10



熊野本宮大社宮司九鬼家隆様より御神木頂戴す H23.12.10

榊(なぎ)の木
古くから熊野社の境内には
植えられ、熊野社の境内には
神木とされ、また、葉には
供物を盛る。また、葉には
葉が切れる。また、葉には
男女の間縁が切れる。また、
入る習俗が葉を鏡の裏



榊(さかき)の木
サカキの語源は、
神と人の境である
こと「境」の意で
(さかき)の意で
あるとされる。常緑
樹であり繁ること
から「繁木(さかき)」
とする説もある。



平成二十四年一月一日

熊野神社社務所